

平成7年10月24日第3種郵便物認可 2012年2月10日発行（毎月1回10日発行）・通巻261号

2012

月刊 En-ichi 圓一

2

no.261

魂の教育を実践する

講演

宇宙はなぜゼロ歳児を我々に与えたのか

音楽家／元埼玉県教育委員長 松居 和



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の
焦点

幼児は我々（大人）を人間らしくする、いい人間性を引き出し、絆の遺伝子をオンにする力があるのです。宇宙が幼児に与えた大切な天命があるのです。

「宇宙はなぜゼロ歳児を我々に与えたのか」 松居 和…5

『なぜ結婚が重要なのか』は、多くの米市民に読まれてきたベストセラーだ。…結論は、「結婚は個人的・感情的なつながりだけではなく、社会善・社会利益につながる」というものだ。

「なぜ結婚が重要なのか」—米国でベストセラーの冊子…10～11

子どもの成長の宝が遊びの中で出てくることによって自分を変えていくようです。驚きでした。…初めて遊びの正体に気付かされました。

「遊ぶこと」で知った子供の成長の宝 大塩宗里…14

(アイヌでは物語を語り継ぎながら)心掛け正しくきちんと生きていくと、神様が必ずそれを見ていて、幸せな死を迎えるよということをお教えます。

「アイヌの子育て観に学ぶ」 本田優子…19

3 巻頭言

「祈り心」を持って歩もう

筑波大学名誉教授 鈴木博雄

4 教育再生への課題と展望

「宇宙はなぜゼロ歳児を我々に与えたのか」

人間の善性を引き出す「子育て」という素晴らしい営み

音楽家 松居 和

10 ワールドアフェアーズ

「なぜ結婚が重要なのか」明らかに —米国でベストセラーの冊子

12 情報ファイル

2011年、人口減少が過去最多の20万人
精神疾患で休職の教員、5400人に

14 私の教育実践

「遊ぶこと」で知った子どもの成長の宝

白鷗大学はくおう幼稚園園長 大塩宗里

17 子育ては絵本で大丈夫

「鹿踊りのはじまり」感性の世界は声に出して

劇団天童/
天童芸術学校代表

浜島代志子

18 発言

アイヌの子育て観に学ぶ —豊かな物語世界で語り継ぐ

札幌大学副学長 本田優子

20 オピニオン

魂に気づかせる人格教育を考える

22 Book Review / 名刺広告

24 歴史と伝統の探訪

幕末志士の心つかんだ横井小楠 / 熊本



筑波大学名誉教授
鈴木博雄

巻頭言



二〇一二年の幕が開き、人々は世界平和の祈りを込めて新しい一年を踏み出した。

去年は三月十一日の東日本大震災によって十万余の人々が家を失い、家族と離散するなど苛酷な一年を過ごした。しかし、その被災地にも漸く復旧・復興への兆しが見え始めた。過去の苦しみにとらわれることなく、今年こそ新しい日本の創造へと前を向いて歩いていこう。

しかし、冷静に国内の状況を見ると、政治、経済、社会のあらゆる面で八方ふさがりの閉塞感が感じられ、個人も国も行くべき方向すら定まらない状況にある。その中で次々に続発する災害や事故、事件に共通しているのは、それにスピード感をもって対応することができない組織の緩さである。個人が障碍になっているのなら、その個人を取り替えればそれでよいのだが、組織となると連結している他の組織にも影響を及ぼすので、うかつには手を出せない。

そこで、どうしても組織が時勢に敏速に対応できなくなる。これが官僚制の弊害などと言われるものだが、個々の官僚の問題と言う以上に、組織社会の宿命的な弱点なのである。

それを克服していくには、組織を左右できる力のある個人に頼るか、それとも国民が一致結束して組織を管理していくしか方法はない。もちろん我々は、独裁に通じる前者ではなく、後

「祈り心」を持って歩もう

者の民主的運営を選択する。

他方、日本を取り巻く世界の情勢を見ると、決して樂觀できない厳しいものがある。とりわけ金正日総書記死去後の北朝鮮の動向を注視する必要がある。独裁者が死亡した国家は、その後継者がスムーズに政権を保持するとは限らないのである。まして政治経験の浅い、若い金正恩氏が後継者であるから、そのまま円滑に政権移行が進むかどうか、今後、中国の動きを含めて、何が起きるか予断を許さないものがある。その事態の推移は日本としても、安閑として眺めているわけにはいかない。

朝鮮半島の動向は、明治以来、国の生命線を脅かすものとされてきたが、今日では一層、その厳しさを増してきたわけである。日本としては、米国、韓国と共に、中国、ロシアにも働きかけて、朝鮮半島の平和と安定に向けて、先頭切つて進んでいく気概がなければならぬと思う。

民主主義の原点は「個人」にある。民主主義社会において平和を維持、推進していくことは、国民一人ひとりの平和への決意にかかっている。いわば、我々が心の中で神に向かって、日々、平和の祈りを続けることが人類平和への道なのである。

その平和への道は、まず「汝の隣人を愛する」愛の道から始まる。新年に際して、この祈り心を持って迎えたものである。

日本の平和と繁栄は、この祈り心にかかっていると断つても決して過言ではないと思う。

「宇宙はなぜゼロ歳児を我々に与えたのか」

人間の善性を引き出す「子育て」という素晴らしい営み

赤ん坊の笑顔が 人の心をついに

子育てを通して我々は善性を引き出され、絆の遺伝子がオンになる。それは宇宙が幼児に与えた大切な天命だ。

米国で三十年、家族崩壊してゆく社会を見てきました。米国では子どもの三人に一人が未婚の母から生まれます。二十人に一人が生涯に一度は刑務所に入り、少女の五人に一人、少年の七人に一人が近親相姦で犯されている社会です。近親相姦や虐待で傷を負った少女たちは愛とか絆が歪んだ形で出てくる場合が多い。忍耐力のない若い未婚の母親が虐待のサイクルを生み出してしまふ。子どもは本来一人で育てるのは無理なのです。

十二年前、米国の連邦議会にタ

レントフェアクロス法案が提出されました。二十一歳以下の未婚の女性が子どもを生んだ場合、一切生活保護費を出さず、政府が面倒を見るという法案です。孤児院で育てば、犯罪者になつたり虐待される確率は低い。しかしこれでは親心が育ちません。

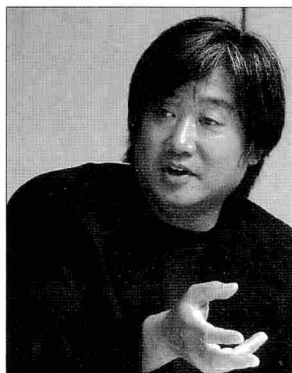
なぜ、宇宙はゼロ歳児を我々に与えたか。ゼロ歳児は言葉を話せない。そのことに意味がある。生後二カ月、三カ月の赤ん坊の笑顔を見た人間は自分が善い人間だと気づいてうれしくなる。その笑顔を五、六人の大人たちが一緒に見ていると心がひとつになる。これが人間社会の原点です。人間は心をひとつにするのが好きなのです。

松居 和

まつい・かず

音楽家／元埼玉県教育委員会委員長

1954年東京都生まれ。慶応義塾大学哲学科からカリフォルニア州立大学(UCLA)民族芸術科に編入、卒業。尺八奏者として『太陽の帝国』をはじめ多数の米映画に参加。1988年、アメリカの学校教育の危機と家庭崩壊の現状を報告したビデオ『今、アメリカで』を制作。『先進国の家庭崩壊』『保育者の役割』について全国で講演を行い、日本の状況に警鐘を鳴らしている。東洋英和女学院短大講師なども務めた。著書に『家庭崩壊・学級崩壊・学校崩壊』『21世紀の子育て』『なぜ、わたしたちは0歳児を授かるのか』他。DVD作品に『シスター・チャンドラとシャクティの踊り手たち』他。





幼児は我々からやさしさ、忍耐
力、祈る力を引き出す

子育てには忍耐力が必要です。なかなか泣き止まない時、どうするか。私が体験で悟ったのは、無心に抱けば赤ちゃんは泣き止むということです。言葉が分からない生後七カ月の赤ちゃんに大人が話しかける姿は、ほとんど独り言です。この独り言が人間を「祈り」の世界に導いてゆく。時空を超えた、非論理的なコミュニケーションが生

きてゆく為に大切なのです。どここの家にも人形がある。なぜ宇宙は私たちにゼロ歳児を与えたのか。ゼロ歳児や人形は、どちらも我々からやさしさ、忍耐力、祈る力といった、善い人間性を引き出し作り出す。私たち人間は自分をいい人間にしてくれるものたちを自ら生み出す、創り出す。

宇宙が幼児に 与えた天命

ゼロ歳児、一歳児、二歳児、それぞれに大切な役割があります。たとえば二歳児。この非論理的で理

不尽な人と一日中二人で過ごすのは大変ですが、小学校一年生の女の子が加わると楽しい時間になる。年齢の離れた絆をもつていれば人類は大丈夫。

ゼロ歳から五歳までの子どもの発達は、人類の進化をみるようです。なぜ言葉が「バア」しかない赤ちゃんを過ぐすと、平和の時間になるのか。相手（赤ちゃん）の気持ちを考えるしかないからです。

実は人間は相手を理解しようとした時、平和になるのです。理解したときではない。こんな大切なことを〇、一、二歳が我々に教え続けてきたのです。

私が一人で公園に座っていたら変なおじさんですが、二歳児と一緒にいたら、いいおじさんです。二歳児はそこにいるだけで宇宙の相対性のおかげで、私をいいおじさんにしてしまう。こんなすごい連中はいい。幼児は我々を人間らしくする、いい人間性を引き出し、絆の遺伝子をオンにする力があるのです。宇宙が幼児に与えた大切な天命があるのです。

親心という歯車が 消えていく不幸

米国では、親による虐待で一年間に九十万人が病院に担ぎ込まれます。親に虐待された子どもの人生は悲しいものです。大きくなって人との信頼関係を持てなくなる。幼児虐待のサイクルが生まれる。不幸な家庭に育った少女が暖かい家

政府の「エンゼルプラン」は少 子化対策ではなく、女性を働か せる税収対策

ていくのです。

「親が親でなくなる」 政策が進んでいる

時間の預かりが増えました。保育や福祉が権利ではなく利権になりはじめています。親たちのなかで何が崩れはじめているのか、行政も政治家も気づいていません。

過去二十年にわたり、政府は保育を雇用労働施策に組み入れ、親に代わり幼児を社会（保育園）で育てる政策を進めてきました。現在も、保育者が足りない状況の中で、五年以内にもう二十五万人未満児をあずかる施策が提案されています。それが、どれほどこの国を傷つけ、将来の負担になるか、想像できないでしょう。「社会で子育て」「システムで子育て」。これでは、ますます社会に人間性が育たなくなる。幼児に信じてもらって人間の人生が定まることを思い出さなければなりません。

十年前、ある園長が「エンゼルプランは虐殺プランだ」と私に言いました。少子化対策ではなく、子どもが減るから女性を欧米並みに働かせて税収を増やそうという、増税対策です。福祉によって家庭崩壊が加速し児童虐待が急増し、いま児童養護施設は満杯です。ほとんどが親による虐待。週末おむつを四十八時間替えない親を作り出したのは福祉です。福祉が全部悪いと言いつもりはありませんが、福祉が進むと、人間社会から人間性、親らしさが失われてくるのです。非常に危機的な状況まで来ています。

受験勉強で親子が 心をひとつにする

フランスは五〇%、スウェーデンでは六〇%が未婚の母から生まれています。毎日新聞の福祉特集で「スウェーデンでは五〇%が未婚の母から生まれている、それは福祉が進んでいるからだ」と、未婚がいいことのような記事が掲載されたことがあります。しかし、現実には福祉が進むと家庭は壊れ、幼児虐待と女性虐待が爆発的に増え

「欧米は進んでいて、日本は遅れている」という論法を真に受けた厚生労働省のエンゼルプラン。全国の保育者が「これ以上預かったら親が親でなくなってしまう」と悲鳴を上げています。八時間保育が十一時間開所になり、一気に長

それでも、日本はまだ奇跡的に家庭が良い状況にあります。未婚の母が日本では一%、これは奇跡

日本で親による子育てが 奇跡的に保たれているの は「祈り」があるから



です。学校や幼稚園、保育園が充実すれば、不自然に長時間親子が引き離され、五、六十年で家庭は崩壊していきます。それが欧米ですでに起こってしまった。

米国は高卒者の二割が読み書きができません。社会で通用する読み書きができない先生が問題になっています。日本は子どもが親に殺される確率は米国の五十分の一、フィンランドの犯罪率は日本の三十倍です。

日本の教育システムはまだすばらしい。受験戦争も親が子どもに関心を持つているからこそ起こると考えることができるでしょう。子どもに教えることで親側の忍耐力

がつき、人間性が育つ。学校で習ったことは忘れますが、受験戦争で苦労したことは覚えています。役に立たないように思える受験勉強に、親子が心をひとつにして取り組むのがいい。子育ては一生懸命やって、あとは祈ることです。それが親心を育てるのです。

ある母親が『叱らない子育て』という本を読んで、その通りにやったらノイローゼになったという話があります。これでは本末転倒。母親が健康で元気であることが子育てには一番重要です。母親が元気ならば、それだけで子育ては大丈夫です。父親の子育ての役割の八割は、母親の健康を保つこと。そのため第一は給料を毎月入れること。日本の父親は奇跡的にまだよくやっています。

「不自由になる」と 「幸せを感じる」

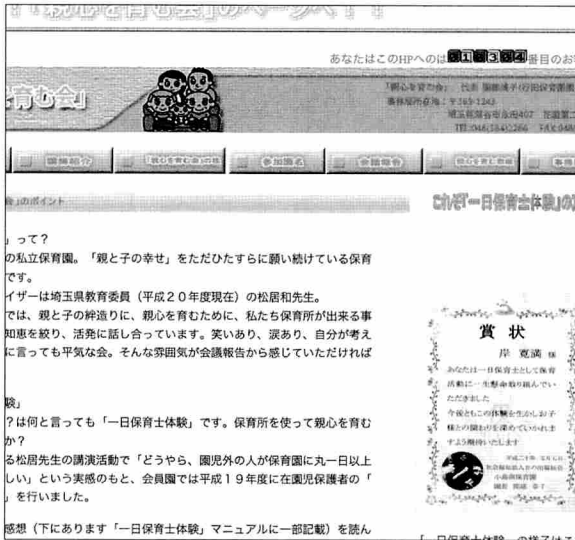
小学校や中学校で自由がいいと教えたら、不自由がいけないことになる。ところが結婚は自ら進ん

で不自由になること。人間は不自由になることに幸せを感じてきた。それを「絆」と呼びます。

不自由なことがいけないとしたら、子どもは生めないでしょう。なぜ宇宙は一人で生きられない絶対的弱者、ゼロ歳児を人類に与え続けるのか。宇宙は「不自由になれ、幸せになれ」と言っている。私たちにゼロ歳児を与えてきたのです。親たちが子どもに自由を奪われ、善い人間性を引き出してもらったことで幸せを感じる。子育ては選択肢がないから、育ちあう、育てあうしかない。選択肢がないことが人間を安心させてきたのです。そのため人間のコミュニケーション能力には時空を超えた世界がある。その出発点は幼児とのコミュニケーションにある。親が子どもを育てることは、人間の本能と意思がそれをさせている。しかし、幼児が親を育てる風景は、宇宙の意思、姿がそこに現れる。

大切なのは「祈り」というコミュニケーションです。人間は祈りで自らの精神的健康を保つようになっ

「一日保育者体験」で親の気持ちが感謝に変わる



「一日保育者体験」に取り組んでいる「親心を育む会」のホームページ (http://www.ac.auone-net.jp/%7eoya_hug/index.html)

ています。学問が普及すると正解があると思うから、日常から祈りが消える。子育てに正解はない。祈らないとつらくなる。日本はなぜ親による子育てがまだ奇跡的に保たれているのか。それは祈りがあるからです。神社の絵馬を見れば七割が受験がらみ。受験は人々を祈りに向かわせる、だから受験はすばらしい。日本には仏教の利他の土壌が活きていて、それが親心を育てるのです。

二十五年間、幼稚園と保育園で

子育ての話をしていますが、全国に私が師匠と呼ぶ園長先生がおられます。ある園長は、ゼロ歳児から預けようとする母親に「いま預けたら、年とつて預けられちゃうよ」と言います。これは保護者との信頼関係を本気で作ろうとしていなければ言えません。すばらしい親育ての保育園です。保育園は子育て支援をやっているのではなく、子育て代行をしているのです。代行するなら相互に信頼関係がないと子どもは天命を果たしたことになる。

うになりますね」と言うのです。子どもが初めて歩く瞬間を親にどう返してやるのか、それが保育の役割なのです。保育士は子どもたちの幸せは親子関係にあることを知っている。

「一日保育者体験」を日本の常識に

私は三年前、園長と保育者二十名で「親心を育む会」という勉強会をつくりました。ここから生まれたのが「一日保育者体験」です。年に一日、園で親が八時間園児に囲まれて過ごす。

生後二カ月の笑顔を思い出してください。幼児は私たちの心を一つにするために存在するのです。いい保育士は、子どもが初めて歩いた瞬間を見ても、親には「もうすぐ歩けるよ」と言っています。親たちの感想文を見ると、八時間も園で子どもとつきあうと、七、八割の親の気持ちが変わっています。父親たちは、自分の子どもだけでなく、他の子どもたちも喜んでくれるのに気づく。それによって、他の子どもにも責任があると感じるようになるのです。まるで部族の感覚です。この親たちの感謝の気持ちが

保育士体験で小中高生も 生きる力が与えられる

保育園や学校を支える。絆を再生するために、部族の感覚を取り戻さなければなりません。親心を育む会のホームページに、人生が変わってゆく親たちの感想文が何百と載っています。ぜひ、読んでみてください。

埼玉県では、「一日保育者体験」を三年以内にすべての保育園、幼稚園で実践することをめざしています。品川区でも全公立保育園、幼稚園で始めました。

「一日保育者体験」で、保育園はいつでも親に見せられる保育をするようになる。これを日本の常識にしたとき、日本は変わります。

子育ては学問の領域ではなく、折りの領域です。親に子どもに関心があればその関心は全て尊い。怖いのは親が子どもに無関心になることです。マザー・テレサは「愛の反対にあるのは無関心」だと言いました。無関心こそが人類にとって致命的。すべての人間関係は双方向の育て合いだからです。

二十四時間のお泊り保育で親を引っぱりだすと、男の人生観、幸

せのモノサシが百八十度変わりま
す。今までオフだった遺伝子が音
をたててオンになる。幼児を眺め
ると人間は自分はいつでも幸せに
なれることを自覚する。宇宙は全
員が幸せになれる方法を用意して
いる。これまで、繰り返しその方
法を伝えてきたのが、集団で遊ん
でいる幼児たちです。

日本は子どもの楽園

鳥根県のある園長先生が、三日間の保育士体験を実施しています。小中高校生の感想文を見ると、「シャボン玉をやってあげた。僕は面白くなかった。でも小さい子が楽しそうにしていたのが嬉しかった」と書いています。純粹な喜び方をする幼児を通して、生きる力与えられるのです。ある小学生は「おんぶや抱っこをして本当に疲れた。でも僕も昔こうだったんだなあ」と書いています。人間が絶対に一人では生きられないことを幼児を通して思い出す。これが人間社会の本当の絆です。

渡辺京二の『逝きし世の面影』(平凡社ライブラリー)という本に、「中国やインドを知っている欧米人が日本を見てパラダイスと呼んだ」と書かれています。日本という国は儒教の国でも侍の国でもない。子どもを拜んで生きている、子ども
の楽園、子ども中心の社会だったのです。

砂場で遊ぶ三歳児、四歳児を見ていると本当に幸せそうです。彼らは「頼りきっている、信じきっている、そして幸せそう」。これは、宗教が求める人間の姿です。私は、四歳くらいの一番幸せそうな人、幸せになるのが上手な人が「完全な人」ではないかと思いました。完全な人、完成している人たちは一人では生きられない。お互いに育てあい、育ち合うしかない。これが子育てというすばらしい仕組みです。幼児という絶対的弱者が我々から善い人間性を引き出してくれる。これが人間の美しさだと思います。目

園一教育フォーラム講演より
(二〇一一年十二月二十三日)

結婚保護運動が 政策に大きな影響

米国での結婚に対する社会通念の変化が顕著になったのは、「セックス・レボリューション」(性革命)思想が横行し始めた一九七〇年代前半からだ。この思想は、「男女の性的活動は、結婚や性別に縛られるべきではない」と訴え、同国の家族の在り方を大きく変える「地層崩壊」を引き起こした。離婚率の急増と非婚(同棲)カップルの常態化、この二つの現象に伴う両親がそろっていない子供の増加がそれにあたる。

結婚に対する概念の変容は、結婚自体の持っている本質・社会的な影響力を、税制上の優遇措置など限定的なものにしている。すでに、「結婚」とは「できれば、するに越したことはない」もので、「必ずしなければならぬ」ものではない。米統計当局の報告では、二〇〇八年以降、全米の成人で法的婚姻状態にある女性の割合は過半

数を切ってしまい、その状況は悪化するばかりだ。

一方、婚姻制度の復興に力を注ぐ動きも強まっている。これまで度々紹介した「結婚保護運動」や「結婚教育運動」だ。この運動は、クリントン政権から現在のオバマ政権に至るまで、連邦政府の社会

政策に大きなウエイトを占めているが、近年その傾向はさらに強まりつつある。

民間シンクタンク「アメリカ価値研究所」とバージニア大学の「家庭生活・結婚研究所」が昨年出版した『なぜ結婚が重要なのか』は、こうした結婚保護運動の一般解説

本として、多くの米市民に読まれてきたベストセラーだ。同著は、結婚の在り方を説き、その利益を心理学的・社会的な観点で説明。初出は二〇〇二年に出版され、版を重ねて、昨年は改訂版として第三版が書店に並んだ。

「同棲は子供の健全な 育成を阻害する」

『なぜ結婚が重要なのか』では、第一版、第二版で、家族構成員が離婚でこうむる精神的・経済的ダメージ、ひとり親家庭における親子の問題、また社会自体の経済的疲弊について論じている。さらに第三版では、最近の統計から「同棲家庭で子育てをすることは、子供の健全な育成を阻害するケースが多い」との結論を導き出している。

同著では、婚姻届を出す理由として、三十の答えを並べる。その理由の多くは従来から言われてきたことだが、情緒的な説明で終わらせてはいない。統計やケーススタディを基にした社会的分析で、

ワールド・アフェアーズ

「なぜ結婚が重要な のか」明らかに —米国でベストセラーの冊子

同棲などの事実婚、シングルペアレント(ひとり親)の増加など、法的婚姻制度の形骸化が進む米国。だが近年の研究では、婚姻の形態が個人や家庭、社会に及ぼす影響が全く違うことが明らかになっている。

ジャーナリスト・内田宏

結婚の重要性を解説。より科学的に論理づけることで、説得力のあるものになっている。

一例をあげると、「同棲と結婚を比べると、結婚の方が得られるものが多い」という見方は、ある意味当然とも言える。しかし、なぜそうなのかと聞かれると、しっかりと説明できる人は多くない。この『なぜ結婚が重要なのか』では、統計や研究を参考資料として紹介し、「結婚している男女の方が、経済的安定と同様、心身ともに安定した生活を送ることができる」と言い切る。

同著は、経済的・親の子供への関わり方の度合いを考慮に入れても、生みの親がそろっている一般家庭よりも、同棲家庭の方が「行動的にも感情的にも問題のある子供が育つ」傾向にあると指摘する。さらに、「ひとり親・同棲家庭での就学前児童の虐待死は一般家庭の約五倍」とする統計（ミズーリ州）を紹介。ひとり親家庭や同棲家庭での児童虐待（性的虐待）の多さにも触れている。

「なぜ結婚は重要なのか」30の結論（一部省略）

●家庭

1. 結婚は父母が子供と良好な関係を保つ可能性を増大させる。
2. 子供は結婚に基づく家庭に生まれた場合にもっとも恩恵を受ける。
3. 子供は複合家庭では元気に育ちにくい。
4. 同棲と結婚は機能的に等価ではない。
5. 結婚外の家庭で育つと子供自身が離婚したり、未婚の親となったりする可能性が増大する。
6. 結婚は事実上人類の普遍的な制度である。
7. 結婚と、結婚への規範的なコミットメントは、大人同士の関係および親子関係の質を高める。
8. 結婚は大人と子供の両方にとって重要な生物社会的影響を与える。

●経済

9. 離婚および未婚の子育ては子供と母親の貧困を悪化させ、同棲は結婚よりも貧困を軽減する可能性が低い。
10. 結婚しているカップルは平均して単身者または同棲カップルより多くの富を築きやすいようである。
11. 結婚は恵まれない女性とその子供の貧困や物質的困窮を軽減する。
13. 既婚男性は同等の教育歴・職歴を持つ独身男性より収入が多い。
14. 親の離婚（または結婚できないこと）は子供の学業不振のリスクを増大させるようである。

●身体的健康と寿命

16. 結婚した自分の両親と暮らす子供は、その他の家族形態で暮らす子供より平均して身体的な健康状態が良好である。
18. 結婚は大人および10代の若者のアルコール・薬物乱用の割合の低下と関連している。
19. 既婚者、特に既婚男性は、その他の特徴が類似している独身者より寿命が長い。
20. 結婚は男女の良好な健康状態および外傷・疾病・障害の割合の低下と関連している。

●精神的健康と寿命

22. 親が離婚する子供は心理的苦痛や精神病の割合が高まる。
23. 同棲は子供の心理的問題の深刻化と関連している。
24. 家族の崩壊は自殺率を著しく増大させるようである。

●犯罪とドメスティック・バイオレンス

27. 結婚は大人が犯罪の加害者または被害者になるリスクを減少させるようである。
29. 結婚している自分の両親と生活していない子供は児童虐待を受けるリスクが高い。

『なぜ結婚は重要なのか-社会科学からみた30の結論』第3版

「結婚とは社会善である」

この冊子の結論は、「結婚は個人的・感情的なつながりだけでなく、社会善・社会利益につながる」というものだ。もちろん、結婚が社会の問題全てを解決するわけ

はない。しかし、統計をみると、「ふた親がそろった家庭では、片親や同棲家庭の子供よりも、子供は健全に生育する割合が高い」との結果も出ている。

同著を責任編集したバージニア大学のブレッドフォード・ウィルコックス教授は第三版で、「法的婚姻状態にある両親から生まれた子

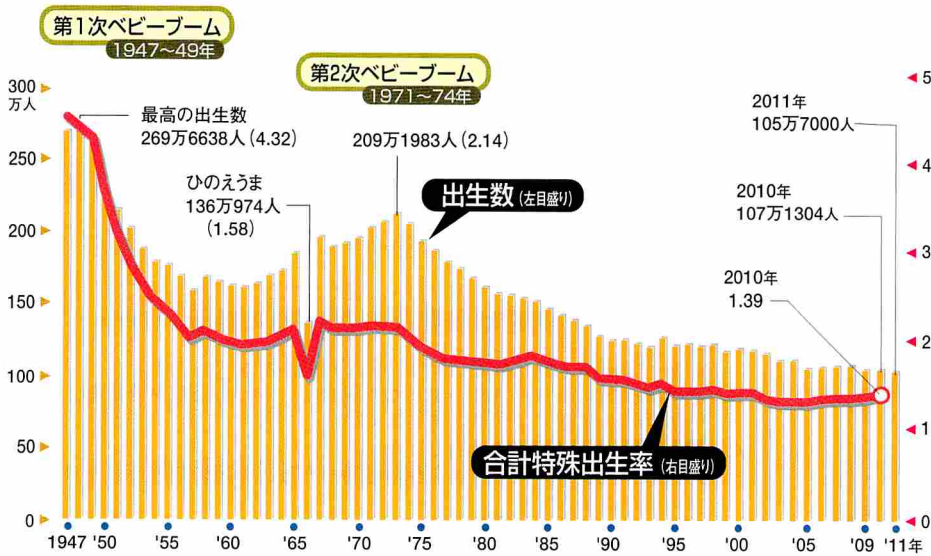
供が、そのまま、その両親と一緒に生活することが、一番望ましいこと」「結婚をしないまま同棲を始める前に、高校を卒業し、正職についてから結婚することの大切さ」

「貧困層や労働者クラス、社会的少数派の家庭での結婚教育」を強調。結婚や家庭生活を成功に導く人格教育の必要性を説いている。E

11年人口動態統計

結婚、離婚件数は共に減少
人口減少過去最多の20万人

出生数と合計特殊出生率の推移 ()内は合計特殊出生率



厚生労働省「平成23年人口動態統計の年間推計」

厚生労働省が発表した二〇一一年の人口動態統計(年間推計)によると、出生数と死亡数の差である人口の自然減は、一九四七年の統計開始以来最多の二十万四千人となった。〇七年から五年連続の人口減で、減少幅は東日本大震災(約一万六千人が死亡)の影響もあり、前年(十二万五千七百八人減)を大きく上回った。

年間推計は、一月から十月までの速報値を基に推計している。

このうち出生数は、前年より一万四千人少ない百五万七千人で過去最少。出産適齢期にあたる女性人口が減ったことなどが要因としてある。

死亡数は六万四千人増えて百二十六万一千人で、逆に最多を更新した。

今後も高齢化の進行で、自然減

が拡大すると見られ、本格的な人口減少期に入っていることを改めて示した形だ。

結婚は前年より約三万組減の六十七万組と、やはり過去最少になった。また、離婚も一万六千組減って二十三万五千組だった。



合計特殊出生率(一人の女性が生涯に産む子供の数)は、前年の一・三九と同程度になると予測されている。合計特殊出生率が横ばいなのは、三十歳代の出産や第二子以降の出産がわずかに増えているためと見られており、むしろ少子化の要因とされる「晩婚化」と「高齢出産」の傾向が続いていることを示している。

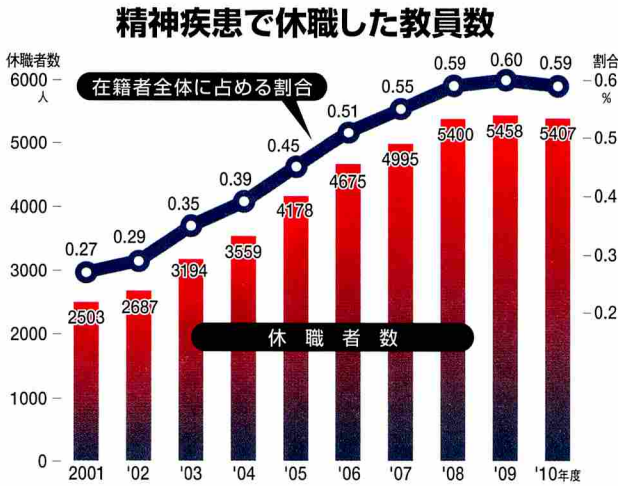
二〇一〇年の統計では、第一子出生時の母親の平均年齢は前年より〇・二歳高い二十九・九歳。この二十一年間で三歳近く上昇した。また、平均初婚年齢は夫三十・五歳、妻二十八・八歳で、やはり二十一年間で二・三歳上昇している。

文科省「教員調査」

精神疾患で休職の教員、5400人 新規採用者の退職も増加傾向に

ここ数年、教員の精神疾患による休職が深刻化しているが、新規採用者でも九十人余りが精神疾患で退職している現状がある。

文部科学省が昨年十二月に発表した統計によると、二〇一〇年度

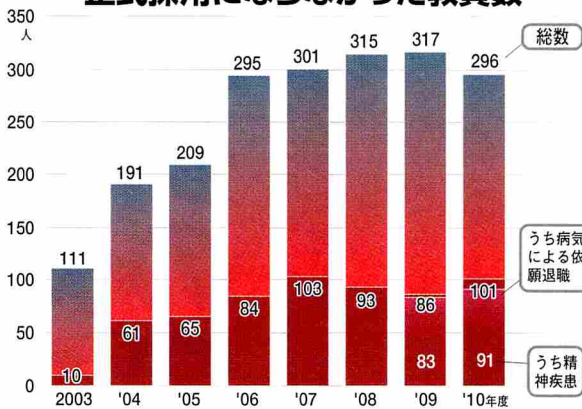


中に精神疾患で休職した公立学校の教員は五千四百七人。前年度より五十一人減少したものの、教員全体に占める割合は〇・五九%で、この十年間で実数、割合とも倍増した。

年代別では、「五十代以上」が三九・八%、「四十代」が三三・八%など、ベテランが目立つ。各教育委員会では、「会議や行事の見直し」「職員が気軽に相談できる職場環境づくり」「心の不健康状態に陥った教育職員の早期発見・早期治療」を各学校に指導するなど、メンタルヘルス対策を打ち出している。

この条件附採用期間の後、依願退職したのは二百八十八人。このうち病気による退職は百一人で、うち九十一人が精神疾患だった。依願退職者に占める精神疾患は〇九年度から集計されているが、〇九年度は病気退職八十六人中八十三人を占めた。病気退職は年々増えていたが、多くは精神疾患と見られている。

1年間の条件附採用期間後に正式採用にならなかった教員数



文部科学省「平成22年度 教育職員に係る懲戒処分等の状況について」

一方、一〇年度に新規採用された教員は二万五千七百四十三人。地方公務員の採

用は条件附採用制度（民間企業の試用期間）がとられており、教員は一年間の条件附採用期間を経て正式採用となる。この条件附採用期間の後、依願退職したのは二百八十八人。このうち病気による退職は百一人で、うち九十一人が精神疾患だった。依願退職者に占める精神疾患は〇九年度から集計されているが、〇九年度は病気退職八十六人中八十三人を占めた。病気退職は年々増えていたが、多くは精神疾患と見られている。

こうした精神疾患が増える原因は、教員の仕事量、保護者への対応、人間関係などにあると言われる。教員全体の多忙感もあって、経験豊富な教員でも新規教員の指導が十分できず、若い教員が一人で悩んでしまうこともあるようだ。教師としての適性を欠く場合は教壇に立たせないなどの対応を進めながら、適正な形での教員数の増加、家庭と地域による学校サポート体制づくりなどを進める必要がある。

「遊ぶまじと」で知った

子どもものの成長の宝

「一緒に遊ぶこと」を通して、子どもたちの成長の宝を実感する。「心の学び」の積み重ねと、親子の愛の交換を支えながら、発見と感動の「学びのスパイラル」を体験させたい。

成長を助ける大人が
傍に居ること

更にもう一つ、成長の宝は、自分の力だけでは芽を出しにくいということであり、それを助けるものが子どもの傍に居る大人でした。遊びの傍に大人が存在する意味がここにあります。つまり、遊びの放任は、実にもったいないのです

幼稚園と小学校 教育のつながり

「幼稚園教育の特色は何か」とよく問われます。

もちろん幼児と児童・生徒では多くの点で違いがあり、年齢によって区分されてはいますが、なめらかな自然界の変化の中で、自然界の一生物である人の成長も、したがってそれぞれの教育も、なめらかに繋がっていきます。とりたてて、「幼稚園教育の特色」は、と切り抜くことに抵抗を感じます。

定年退職後、私は幼稚園の園長

を拝命することになり、それなりに勉強もし、しかも自分には三十八年間の中学校教育の実績があると、多少なりとも自信を持って赴任したものです。

ところが、子どもに近づけるところか、子どもが寄ってきません。園長が園児を知らない状況にはまり込みました。私は、幼稚園の教育者ではなかったのです。まず子どもを知らねばなりません。ここに至ってはもはや道は一つ、園児と遊ぶことしかなくなりました。何としたことか、これが私を大

変革させた「目からうろこ物語」を作ってくれました。中学校勤務時

代には分からなかったことが、次から次へと姿を現しました。

皆さんにとっては周知のことです。恥ずかしいのですが、「子どももの成長の宝は大人が与えるものではなく、子ども自身に内在している」がその一つでした。その宝が遊びの中で出てくることによって、子どもたちは自分で自分を変えていくようです。驚きでした。一般的に「子どもには遊びが大切です」と言われ、なぜ大切なのかと聞かれても、私は明確な答えを持ち合わせていませんでした。子どもたちと遊んで初めて遊びの正体に気がかされました。



大塩宗里

おおしお・むねさと

白鷗大学はくおう幼稚園園長

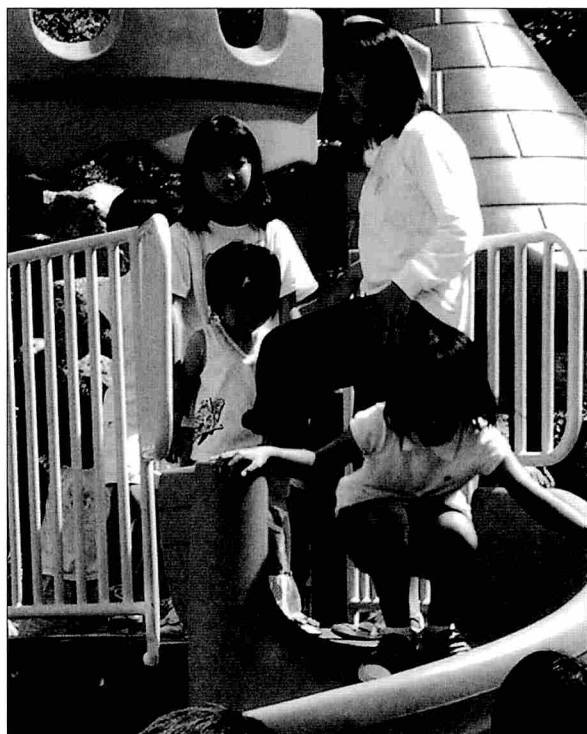
1944年栃木県生まれ。宇都宮大学教育学部卒。中学校理科教師として教職に就く。小山市小中学校長会会長等を務め、2005年4月より現職。

(具体例は別の機会に)。

子どもの遊びは、必ずと言っていいほど、喧嘩などによる崩壊と、気移りによる自然消滅に向かい、それは集団社会からの逸脱で、良い方向、良い結果になるとは言い難いものです。喧嘩や気移りを上手に処理してやれる大人が必要になります。ここに、子どもと遊ばなければ分らない子どもの成長物語が展開してくるのです。

子どもたちは、大人の言う道徳など無関係に遊びます。そこにいる大人たちは、無意識に声をかけ、過去に道徳に外れたことをしていたであろうにも拘らず、突然教師になるのです。それは極めて面白い現象で、子どもに言っているつもりが、自分に言い聞かせているという自浄作用にほかなりません。これはみごとに「教育の裏の秘密」です。

子育てに悩み、苦しみ、忍耐の連続と前述の話とが関わって、子どもと遊ぶ大人は、大人が大人として、親が親として成長することになります。而して、世の中が落



子供の成長の宝が遊びによって現れてくる

ち着くという話になります。

男女共同参画時代の中で、保育時期にあっても、共働きが時代のニーズとして、保育園を増やす話へ繋がると、それは大人も壊れる

という一大事の引き金になりそうです。乳幼児を保育園に預ける状況になれば、帰宅後、職場でストレスを抱えた親と集団生活の中でストレスを抱えた子どもが向き合うことになり、まさに要注意です。幼稚園教育を考える事は、私たち大人をも含み込んで考えねばな

りません。

幼稚園は「心の学び」「積み重ね」をする

ところで、私の幼稚園には多くの大学生が教育実習にやってきました。ひよんなことから、その学生たちに「憶えている一番古い記憶は何歳ですか？」と聞くことがあります。答えは圧倒的に三〜五歳に集中します。更に「どのよう

くと、一緒に「楽しかった。感動した。悲しかった」などで、幼児期には、心の記憶、情緒面での記憶を積み重なる作業をしていたようです。幼稚園は「心の学び」「心の積み重ね」をするところでした。乳幼児期に親からの無償の愛をたっぷりもらい、信頼できる人を感じ取り、幼児期に心の積み重ねをしっかりとできた子は、成長後の失敗にも、人を信頼できる心と相手を思いやれる心から、元に戻れる幸せを掴むことができそうです。この時期に、知識の注入に偏ったりなどして、心の積み重ねをおろそかにしたときの成長が心配でなりません。ここにも幼稚園教育の大切さが伺えます。

幼児期に愛情を注がれていない子

中学校教員時代の生徒指導で悩んだ事例を思い出します。問題を起こした二人の生徒を指導した折の事です。「ありがとうございませ

まで反抗的な態度を変えない生徒に分かれるのは一体なぜ？誠に残念なことは、反発する生徒の多くが、再度同じ事件を引き起こす実態です。お互いに心の交流がなされないまま卒業してしまうことは、教師の無力感を感じさせられて堪りません。

今、縁あって幼児教育に携わり、そうした生徒たちの心の傷が、〇〇二歳、あるいは三〇五歳の時期にあるのではないかとつくづく感じてしまいます。人としてのベイスになる愛情を注がれていなかったのではないか。そのために、失敗してもなかなか元に戻れないのではないかと。

受身の時期の〇〇二歳は、誰かに見てもらわなければ生きていきません。それは親である必要もないのですが、子どもを育てるということは、大人自身も成長するわけで、その宝を受け取る権利を親がみすみす放棄する手はないと思えてなりません。

やはり、成長の宝のキャッチボールは、親子の間で行うべきで、保

育士と子どもの間だけの「愛の交換」では寂しすぎます。親子間の「愛の交換が、兄弟との愛の交換、祖父母との愛の交換へと広がり、隣近所との愛の交換へと進むことを想像するとわくわくしてきます。政府は、幼保一体化構想を打ち上げはしたものの、いろいろな問題にぶつかり、頓挫しています。それはとりもなおさず、幼稚園存在意義の見直しに入ったとも考えられます。

「学びのスパイラル」 体験させたい

近年研修会などにおいて、「幼児の学び」についての話題も多くなりました。小学生のそれとは当然違ってきますが、幼稚園を終えると自動的に学問の時期を迎えます。小学生での学びに抵抗なく入り込めるために、幼児の学びも考える必要があります。

学ぼうとする意欲は探求と共にあり、探求は疑問からスタートします。疑問は感動や驚きから湧き

上がります。感動や驚きは発見から生まれます。発見は体験からなされます。生活体験の少ない幼児にとって、自然ほど発見の多い場所にはありません。「子どもを自然の中で遊ばせよう」とはまさにこのことです。

理科教師であつた私は、早速「博士になろう」の一コマを作り、自然を考慮して題材を求めながら、各クラスをまわることにしました。物作りは、単なる飾りものではなく、動くおもちゃ風をねらいました。これが大成功！

今では、胸にルーペと図鑑をぶら下げた豆生物学者を見かけるようになりました。

この学びのスパイラルを、楽しく体験させることが、成長した子どもたちの学びを本物にするに信じています。

大人と幼児が自然の中で、共に発見し、共に感動し、共に疑問を持ち、共に調べるからこそ、幼稚園での学びの一つです。

人を作る場所、それが幼稚園です。E

心豊かな思春期を送るために 愛と性の尊厳

乱れた性情報が氾濫する中、愛と性をまじめに語る本

賀久はつ（助産師） 中山尚夫（産婦人科医） 石崎淳一（心理学准教授）

発行／アートヴィレッジ 受注センター TEL:078-882-9305 FAX:078-801-0006



A5 2色 144頁 1050円(税込)

子育ては*絵本で*大丈夫

* 18

感性の世界は声に出して読みましょう



浜島代志子
劇団天童/
天童芸術学校代表

「鹿踊りのはじまり」



「鹿踊りのはじまり」宮沢賢治/
作 たかしたかこ/絵 偕成社刊

岩手県花巻あたりに鹿踊りという郷土芸能があるのをご存知ですか？ 頭に大きくて長い鹿の角をつけて鹿がはねるように踊るので、その鹿踊りがどうしてできたのか、賢治はざあざあ吹いていた風が、だんだん人の言葉に聞こえ、鹿踊りの本当の精神を語りました、と書き出します。

賢治という人は風や星や雪、天の人、動物とも心を交わし言葉と交わすことが出来るのですね。なんと心地良いことでしょう。子どもの心をそのまま持ち続ける人って素晴らしいと思いませんか。

劇団天童絵本と語りの弟子さんに岩手の人がいます。この人達は、賢治の作品は身近に感じるのであつ

のが一番。

て、研究者にコムズカシイことを言われるとがっかりする、どう読むか、語るかを学びたいのよ、と言います。

私もそう思います。感性の世界、直感の世界を書いた賢治の作品は声に出して読む、語る

◇ ◇ ◇

嘉十は鹿に呉れてやるべとちいさい柄の団子を置いてやったとき、てぬぐいを落としてしまいました。さあ、それを見つけた鹿たち、柄団子には目もくれず、手ぬぐいの正体を確かめに行きます。これからが、おもしろ。一匹ずつ手ぬぐいの偵察に出かけます。毒きのこだ、いや、生き物だ、皺が寄った年寄りの番兵だ、頭あるか？ 息してるか？ 大きななめくじがひからびたのだな、味あるか？ 鹿たちの大さわぎ、カン違いが可愛い、おもしろい、東北弁だから尚おもしろさが増します。鹿たちはぐるぐる回り歌い踊ります。

太陽がはんの木の梢の中程にかかると、鹿たちは太陽を拜むように一列に並び透き通った声で歌い始めました。清らかな敬虔な場面です。これが賢治の内面世界ですね。そう、賢治の作品は感じて声に出して伝わるのではないでしょうか。

◇ ◇ ◇

「先生、読んでくださいよ」私が読むと弟子さんは大笑い。私の東北弁がうまいのだそうです。山形県立図書館の事業で五、六年かけて県内をくまなく絵本、人形劇、語り実演と実技指導して回っているうちに身につけてしまったのです。熊本に行けば熊本弁に、山形に行けば山形弁に神戸に行けば神戸弁になるのです。土地の言葉で土地の物語を語れば人物が立ち上ってきます。■

☆ ミュージカル「山椒太夫」ショータイム：ドレミの歌、雨に唄えば、アメーzingグレース、お祭りマンボ、雨ニモマケズ」DVD、「雨ニモマケズ」CD、お分けできます。ご希望の方は劇団天童までご連絡ください。

「山椒太夫」DVD/2500円(税込)、「ショータイム」DVD/1200円(税込)、「雨ニモマケズ」CD/800円(税込)、送料/2枚迄80円。

Mail hamashima@gekidantendou.com
TEL・FAX 047-703-7932

「アイヌの子育て観に学ぶ」

豊かな物語世界で語り継がれる教育と至上の幸福

アイヌの人々は、豊かな物語世界を通して、非常に体系的な教育、子育てを語り継いでいる。

「誕生の季節」に込められた意味

私は、アイヌ語とアイヌ文化を研究しています。大学卒業後、縁あってアイヌの人たちが住む二風谷で十一年間暮らしたのですが、その経験が今の私の軸足になっています。

さて、言語の背後には、民族の世界観や歴史が広がっています。例えば、アイヌ語には「誕生日」という言葉がありません。その代わり、「誕生月」があります。アメリカ先住民もそうだといわれま

すが、誕生日という一日をお祝いするのではなく、民族のならわしで自分が生まれた「誕生の季節」の物語を家族から聞き、その陽光、風の香りを受け止めて、自分が今

存在していること、これから成長していくことを考えるのです。これを聞いた時、私は言葉にできない衝撃を受けました。

また、私の好きなアイヌ語に「ヤイコシラムスイエ」＝「考える」という言葉があります。直訳すると「自分に対して自分の心を揺らす」です。考える力というのは「脳力」だと漠然と思いがちですが、アイヌの人たちにとっては、自分の

心をどう揺さぶるのか。つまり心を揺らす力が考える力なのです。外側に向かうのではなく、自分の内面、自分の心をめざすわけです。

「子どもが大地に満ちあふれる」

アイヌにはそうした世界観が込められている豊かな物語世界が展開しています。本当に面白い物語が数多くあります。

実はアイヌは文字ではなく、口伝えによって豊かな物語世界を展開してきました。これはアイヌに文字がなかったというより、「発

する」言葉の力を信じた」と考えていたのだと思います。文字に頼るのは頭の悪い人間がすることだという考えが、最近までありました。実際、アイヌの人たちの記憶力はすごいものです。科学の力で私たちは自分が進歩しているような感覚になりますが、携帯電話が無くなったら途端に友達の話



本田優子

ほんだ・ゆうこ
札幌大学副学長

石川県生まれ。北海道大学文学部卒。文学博士。専門はアイヌ文化、アイヌ史、アイヌ語。著書に『二つの風の谷—アイヌコタンでの日々』、『伝承から探るアイヌの歴史』(編)他。

話番号も分からなくなつて困つてしまふのではないでしょうか。

こうしたアイヌの人々の独自の世界観、習俗、歴史意識を投影しているのが物語です。この中には、夫婦の情愛や親子の絆が濃密に描かれています。

主なジャンルは三つあります。一つは「英雄叙事詩(ユカラ)」です。

超人的ヒーローが活躍する物語です。二番目は「神謡(カムイユカラ)」。動植物など様々なカムイの物語です。三番目が「散文説話(ウエペケレ)」で、アイヌ社会の倫理観や習俗を最も色濃く反映した物語です。

これらの物語によく出てくる、人間の至上の幸福の表現が、「子どもが大地(周り)に満ちあふれる」という状態です。これが物語のラストシーンに出てくるのです。特に散文説話は、悪いことをすると悲惨な死に方をするよ、心掛け正しくきちんと生きていると、神様が必ずそれを見ていて、幸せな死を迎えるよということを教えます。必ずと言っていいほど、主人公が死

ぬ場面で終わるのです。そのときに、周りに子どもが満ちあふれているのが人間として最も幸せだというラストシーンになっているのです。

物語を通して 子育てを伝承

また、例えば男の子をどう育てるかという場面がよく出てきます。次の文は、狩猟の技を教える父親の姿を描いた「村おさは化け物」という散文説話です。

「私が少し大きくなって、父のあとへ小走りについて歩けるぐらいになると、父は狩りに行く時も一緒に連れていってくれました。そして、クワリ(仕掛け弓)を仕掛ける時に、『これはお前の仕掛けだよ』と言いながら、私の持ち弓を別に仕掛けてくれます。そうすると私の持ち弓に特別多く獲物が掛かるので、父は、『やっぱり私の子どもだ。ゆくゆくは狩りの名人になるであろう』と喜んでくれました」

「狩りが一人前になった私を見た父は『狩りの腕はこれでいいが、次は神々を祭る時の言葉を教えよう』と言いながら、山を歩きながらも、狩小屋にいる時でも、口を休ませずにいろいろな話を教え聞かせてくれます。それを覚えるときまた次の話というふうに、次から次へといろいろなことを教えてくれました」

「『狩りもよし、言葉、雄弁これもし。度胸は教えるものではないしに自分で身につけるもの。この三つがお前に備わったので、あとはもう教えるものがない』と、父が言ってくれました。…」

これらは、メインのストーリーには直接関係ありません。関係はないけれども、こうした物語の中で子育てマニュアルのようなものが伝承されています。わざと子どもの仕掛け弓に獲物がかかるように作り、ほめて伸ばして、これができたら次に進むというように、段階的、系統的な教育を行っています。物語を語り継ぎながら、そのことを受け継いでいくわけです。

立派な男、女に なる三つの条件

男は雄弁に言葉を操れるように育てることが一番よいとされています。村おさの三つの条件というのがあって、「雄弁」「度胸」「美貌」です。このうち雄弁が最も重視されるのは、村の間で争いが起こった時、徹底して議論するためです。ですから小さい頃から徹底してディベートの訓練をしています。

一方、立派な女性の条件は「度胸」「器量」と共に、「手先が器用(裁縫、刺繍が上手)」です。手先が器用でなければお嫁に行けないとも言われていたそうです。

アイヌの子育てには「大自然の中でおおらかに」というようなイメージがありますが、実際には非常に意識的、体系的な教育をしていました。その際、口承文芸が持つ教育システムの機能が生きていたわけです。■

北海道人格教育懇話会講演より
(二〇一一年十一月二十二日)

魂に気づかせろ 人格教育を考える

今年の成人式で、新成人の多くが「社会のために役立ちたい」という抱負を語っていた。ここでは「人格教育」の一つの方向について考えてみたい。

編集部

小誌では、「人格教育」を主要テーマとして取り上げている。米国内

一大教育運動となっている人格教育は、道徳、価値を単に知識として教えるのではなく、普遍的な「徳（美德）」を教え、それを実践すること、善き人格の育成と、より善い学校、社会の構築を目指すというものだ。

例えば、学校が礼儀正しさと思いやりの雰囲気、共通の目的を持つコミュニティ（共同体）となるためにも、学校生活のあらゆる

場面で子供たちに行動規範のモデルを示し、教え、実行できるように助ける。それによって、教育の場としてふさわしい学校環境が生まれる。

具体的に教える徳目は、「智恵」「正義」「自制心」「勤勉さ」「誠実」「感謝」「謙遜」「責任感」「尊敬」「奉仕」「自己統制」「正直」「共感」「勇氣」など。いずれも時代や文化、民族を超えて普遍的に尊重されてきたものだ。

こうした徳目を定めて、幼稚園から高校まで、学校内はもちろん、家庭、地域でも毎日の生活の中で繰り返し指導し、単に道徳やルー

ルを頭で理解するだけでなく、自然に道徳的行動ができるよう「習慣化」することを目指す。

ところで、「人格」の語源には「魂に刻まれたもの」という意味があるという。

鈴木博雄氏（筑波大学名誉教授）は、「自分が生きる道を真剣に求めるには、従来の外部の状況ばかりに向けていた眼を、自分の心の内に向けて、そこから聞こえてくる『本来の自分はかくありたい』という魂の叫びに耳を傾けることである」として、I Q（知能指数）やEQ（こころの知能指数）だけでなく、生き方の基本を見定める

能力であるSQ（Soul Quotient、魂の知能指数）があつて初めて総合的な人格が形成されると語っている（小誌二〇〇九年五月号）。

人格教育は、人格の核心とも言える魂の声、「自分はこうありたい」という声に気づかせ、その魂を強め、具体的行動を通して自己を形成することだと言うこともできるだろう。

生死を超えた体験と 学生たちの変化

今年の成人式では、新成人の多くが「社会のために役立ちたい」と抱負を語る姿が映し出された。東日本大震災によつて被災地以外の若者も心を動かされ、ボランティアなど具体的な行動を起こす若者も少なくなかった。大震災の影響はなお重大だが、こうした若者たちの変化は、我々が学ぶべき大切な教訓でもある。

参考になる教育実践の例がある。バーニス・ラーナー氏（米ボストン大学教育学部倫理人格向上セン

ター上級研究員)が大学で行っている、ホロコースト生存者に関する授業だ(『圓一』二〇〇八年三月号)。生死を超えた体験をした生存者のうち七人にインタビュー。彼らはその後、様々な困難を克服して人生に希望を見出し、社会に対して積極的な貢献をしている。『世界が深く傷ついていることを自分の目で見て、自分の肌で感じてきたのに、その世界を癒そうと努力してきた』生存者の行動や彼らを導いた崇高な原理を学生たちに考えさせるといふ。

「私がホロコーストに関して研究し、それを学生に教えることは、人格教育と密接な関係があります。ホロコーストについて学生に教えるとき、彼らの心の一部が変化するのです」

「授業が終わって数か月して、学生からEメールを受け取ることがあります。そこには『授業を受けて物事の見方が変わりました』とか『私も人助けがしたい』と思い、現在は奉仕活動に携わっています』授業を受けて同じ自分ではいられない

くなりました」と書いてあったりします。これは、すべての年代の人格教育に応用することが可能です」とラーナー氏は語っている。

「同じ価値が自分にもある」と自覚させる

また、道徳教育が専門の金井肇氏(大妻女子大学元教授)は「自

分の内の気高さ」に目覚めさせる教育」が大切だと指摘する(小誌二〇〇九年十二月号)。

「人間の最も内面の部分、それを魂と言っても、別の言葉で言ってもいいのですが、そこに目を向け、人格の根本から子供の行動が変わるようにしなければならぬ」

その上で、例としてパラリンピックの水泳競技で金メダルを獲得し



魂を揺り動かす、あるいは自己の魂の価値に気づかせる教育が必要ではないか

た成田真由美さんをテーマにした授業を紹介。「その授業は『ハンディがあっても一生命頑張れば、金メダルに手が届くよ』というものではありません。それよりも、『命というのは強靱なものである』『少々のことではへこたれない』というところに目を向けさせたのです。子供たちが、成田さんと同じ命を自分も受け持っている、そして自分が持っている命は簡単にへばるものではなく強靱なものであるということに気がついていけば、生きる意欲が非常に強くなる」

「この人は偉い」ではなく、『自分にもそのような才能がある』と自分の中の気高さを目を向けさせることが重要なのです。人の生き方に感動すると言いますが、その人と同じような価値、同じ強さが自分の中にもあるということに目覚めさせることが大切です」。

このような、魂を揺り動かす、あるいは自己の魂の価値に気づかせる教育が現代には必要ではないかと考える。E

世界の教科書で
よむ〈宗教〉

藤原聖子著／筑摩書房／
七九八円(税込)



的で頁数も少ない。一方、本書が取り上げる九カ国のうち六カ国で「宗教科」の授業が設けられており、「宗教」の教科書もある。公立学校で宗教は必修であったり、宗教別の分離型授業を行っている国もある。公教育で特定の宗教の価値観を教えることを禁止している日本とはだいぶ違う。

日本と違って諸宗教が混在する社会では、それぞれの宗教に配慮し、バランスを取りながら、「お互いの理解を深めよう」という観点で宗教の授業を行っているのが分かる。

民族・宗教の対立が激化するなか、諸宗教への正しい理解と態度が重要になってくる。世界を知ることはその国の宗教を知ること。学校で宗教をきちんと教えることができない、日本の宗教教育のあり方が問い直される。

日本以外の国では宗教はどう取り上げられているのか。アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、トルコ、タイ、インドネシア、フィリピン、韓国の宗教の教科書を取り上げながら、多文化・多民族社会の宗教教育のあり方を問うたユニークな書。教科書の内容や授業を紹介するだけでなく、宗教とともに暮らす人々の生活を通して生きた宗教の姿を伝えており、世界の諸宗教を知るという意味でも分かりやすい。

日本は宗教への不信感や偏見が強く、社会での存在感が薄い。教科書の宗教の扱いもきわめて表面

■表紙写真 新年の東京の空

撮影・大塚克己

春 頌

(有)日光社

代表
取締役 大橋のりえ

板硝子工事請負・住宅用アルミサッシ
湯浅硝子株式会社

専務
取締役 湯浅 正子

〒453-0821 名古屋市中村区大宮町三二二六
TEL052(482)2111(代)
FAX052(482)2150

株式会社ゆやま画房

代表
取締役 湯山 淳三

〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目二五―四一
エフジール栄三丁目ビル六階
TEL052(264)4005(代)

前田 伸治

出版・電子出版／ウェブサイト企画・制作

ニューズデザインスタジオ

TEL078(576)0785
nishigaki@newsdesign.co.jp 西垣秀樹

「絆」は最強の防犯対策

埼玉県三郷市で女子中学生が刃物で切りつけられた通り魔事件で、

十六歳の少年が逮捕されました。事件前に同級生に猫の首を見せるなど、ショッキングな行動を見せていた少年の犯罪が教育関係者に衝撃を与えています。このほか、静岡市内の次郎長ゆかりの神社に放火したとして、市内に住む少年三人が逮捕されるなど、少年犯罪が

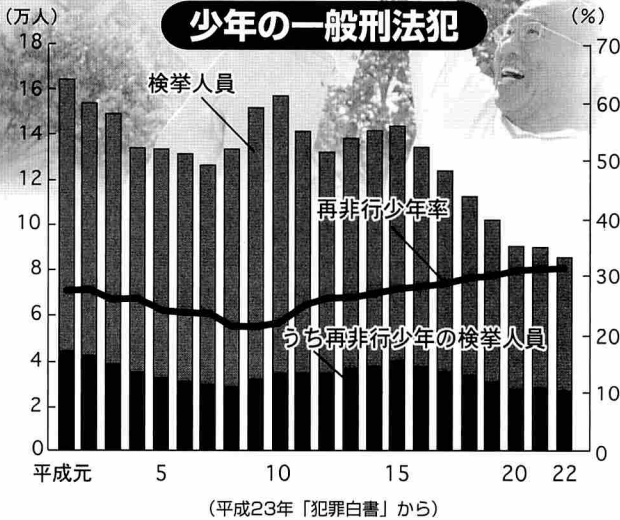
続いていきます。法務省の二〇一一年版犯罪白書によると、刑法犯で検挙される少年は減少傾向にあるものの、少年人口に占める比率は高い水準が続いています。また、再犯の比率が上昇し続けているのも懸念材料となっています。通り魔事件で逮捕された少年がなぜ異様な行動を取るようになったのか。同じような事件の防止のためにも、育つ

た環境も含めて詳細な分析が求められます。

昨年の犯罪白書は「少年・若年犯罪者の実態と再犯防止」と題して少年の再犯防止に焦点をあて、少年鑑別所や三十歳未満の受刑者を対象に、非行や犯罪に対する意識調査を行ったのが特徴となっています。その調査では、七割が「悪いことを思いとどまる心のブレーキ」に「家族」を挙げ、「警察」（一割）つまり逮捕されることへの恐れを大幅に上回りました。

人間の良心も道徳心も、人との関わり、特に家族との関わりの中で育つことを考えれば、人との絆が心の動いていきたいと考えています。

東日本大震災によって、私たち日本人は家族や地域社会の絆の大切さを学びましたが、犯罪防止でも同じことが言えるのです。私たち真の家庭運動推進協議会は新たな一年も、家族や地域の絆を取り戻すとともに、それをさらに強めるために積極的に活動していきたくと考えています。



家庭は愛の学校

真の家庭運動推進協議会

The Association for the Promotion of True Families

〒1600022 東京都新宿区新宿5-13-2 成約1141L
電話03(6445)7760 FAX03(6445)7761 http://www.aptf.jp

毎月第3日曜日は「家庭の日」
11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、社団法人「青少年育成国民会議」が進めてきた「家庭の日」運動に端を発し、今ではほとんどの自治体が、「第3日曜日を「家庭の日」に定めています。さらには政府は十月の第3日曜日を「家族の日」に定めました。週間は「家庭の週間」として定められました。この日を機会に、家族の強い絆を確立できれば、それは家族みんなが幸せなポイントになるでしょう。

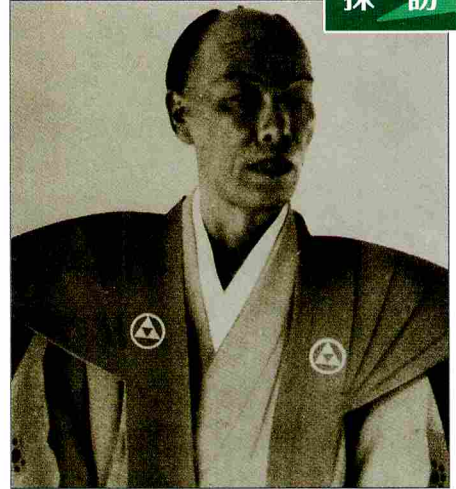
●皆様の御意見や気づいたことをお寄せ下さい。教育問題に関して、皆様の身の回りでの様々な出来事や御意見などを真の家庭運動推進協議会本部までお寄せ下さい。お寄せいただいたものを参考にしながら、皆様と共によりよい教育環境や家庭づくりに取り組んでいきたいと考えています。



第3種郵便物認可
2012年2月10日発行
毎月10日発行・通巻261号

幕末志士の心をつかんだ横井小楠／熊本

歴史と
伝統の
探訪



(左上より時計回りに)小楠と龍馬が3度会見した四時軒の客間、横井小楠肖像(国立国会図書館蔵)、四時軒(横井小楠記念館)、横井小楠をめぐる維新群像=熊本市・高橋公園(PANA)

熊本市東部の沼山津に横井小楠(二八〇九〜一八六九)の邸宅兼私塾「四時軒」はある。かの勝海舟が「氷川清話」で「おれは今まで天下で恐ろしいものを二人みた。それは横井小楠と西郷南洲だ」と書いている。坂本龍馬も「俺の師は勝海舟。勝先生の師は横井小楠」と語った。吉田松陰も小楠との面会后「萩にて藩士達にご指導を願いたく」と手紙を書く。

何が幕末のヒーロー達の心をつかんだのか？

小楠は肥後藩の中流武士の出身。八歳で藩校時習館入学後、三十一歳で江戸に遊学し碩学達と交流。翌年、酒で失敗し帰藩。後に「学問を字句の解釈のみならず、現実に根ざし民の生活を豊かにするため用いるべき」との考え(実学党)で私塾を開く。

彼は、熱心な攘夷論者から時の

国際情勢を知って開国派に転じ、大統領制を「禪讓」とも評価した。これらを世人は「節操なき変節者」と誹謗するが、小楠は「昨日の非を認めるのが学問、日々改めざるは進歩なし」と反論。龍馬の言葉で有名な「日本を洗濯致し……」こそ、じつは小楠の口癖だった。

熊本での評価に反し越前藩では賓師として重用。前藩主松平春嶽が徳川慶喜を補佐し政事総裁職になると、ブレイクとして江戸で活躍。酒宴中の士道忘却事件により、士席、知行剥奪の後も新政府に請われて「参与」を拜命(明治元年)。岩倉具視の信任は絶大で、浪士から大臣への破格の大抜擢であった。だが翌明治二年正月、京都で暗殺される。享年六十一。小楠は京都同志社とも縁が深く、長男時雄は第三代総長、娘みや子の夫は第八代総長の海老名弾正である。目

2012

2

no.261

En-ichi

●発行所
NCU-NEWS
(東西南北統一運動国民連合)

〒160-0022
東京都新宿区新宿5-13-2
成約ビル2F
TEL.03(5362)0631
FAX.03(3354)5017
E-mail news@en-ichi.org
URL http://www.en-ichi.org

●発行人 渡辺久義
京都大学名誉教授

定価 400円
[1年間5000円(送料込み)]
郵便振替番号
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想をお寄せください。
●定期購読のお申し込みは、電話またはEメールでどうぞ。